

第11回K I H S心理臨床ワークショップ

へき地医療と臨床心理学的支援



- 日 時：2014年3月2日（日）10～17時
会 場：甲南大学人間科学研究所（甲南大学18号館）
話 題 提 供：岡田 憲（社会医療法人石州会六日市病院／臨床心理学）
指 定 討 論：長谷川 明弘（東洋英和女学院大学／臨床心理学）
宮川 貴美子（甲南大学文学部／臨床心理学）
企 画：富樫 公一（甲南大学文学部・人間科学研究所／精神分析・病院臨床）
共 催：甲南大学心理臨床カウンセリングルーム
後 援：兵庫県臨床心理士会
対 象：へき地医療や在宅療養支援の専門家、あるいは、さまざまな現場で高齢者への心理的支援を実践している臨床心理士や職員、それに興味がある大学院生
定 員：30名
参 加 費：5000円（当日受付にて徴収します）

ワークショップ趣旨

人間科学研究所では、地域の専門家を対象に、研究事業に関係した研修会を毎年開催しております（研究事業の詳細はウェブサイトをご参照ください）。今年度は、東洋英和女学院大学の長谷川明弘先生をお招きして、「へき地療養患者に対する臨床心理学支援」に関する研修会を実施いたします。人口の高齢化、地域経済格差、地域医療格差、過疎化、といった問題は、それぞれ独立したものではありません。それらは相互に影響し合いながら問題を複雑にし、今後ますます大きな問題になることが予想されます。へき地医療拠点病院で臨床心理学的支援を研究・実践されている六日市病院の岡田憲先生に話題提供いただき、この分野に興味関心を抱かれる実践家の方々と多角的な議論ができればと思っております。

甲南大学人間科学研究所
所 長 川田 都樹子

プログラム

受付 9:30～9:55
シンポジウム 10:00～13:00 (途中休憩をはさみます)

「へき地在宅療養がん患者とその家族が求めるもの」

昼休憩 13:00～14:00

※会場のすぐ近くには飲食店やコンビニエンスストアなどありません。
昼食はご持参いただくか、駅周辺までおでかけいただくこととなります。
館内に自動販売機はありませんが、お茶等は会場にご用意いたします。

事例検討 14:00～17:00 (途中休憩をはさみます)

- ① 岡田 憲「老年クライアントと若年セラピストとの心理療法
—次の自分へ夢を託すニード—」
- ② 宮川 貴美子「高齢者への箱庭療法の可能性をめぐって」

申込方法

メールにてお申し込みください

件名を「ワークショップ参加申し込み」とし、本文に①氏名、②ご住所、③年齢、④職業(学生の場合は学校名、学年)、⑤臨床心理士資格の有無をご記入の上、下記アドレスまでお送りください。

kihs_info@yahoo.co.jp

※締切は2014年2月17日(月)16:00です(厳守)

参加の可否は申込締切後 2月21日(金)までにメールにてご連絡いたします。

万が一この期間を過ぎても連絡がない場合、お手数ですが当研究所までお問い合わせ願います。

注意携帯からお申し込みの場合は、上記アドレスの受信許可設定をお願いいたします。

参加費(5000円)は、当日受付にてお支払いいただきます。

釣銭の必要がないようにご準備ください。

*臨床心理士の方へ

本研修会は、条件が満たされれば、「臨床心理士」継続研修機会として申請予定です。
継続研修ポイント取得を確約するものではありません。

講師紹介

岡田 憲 (おかだ・けん)

臨床心理士。へき地医療拠点病院にて勤務。

口頭発表

老年クライアントと若年セラピストとの心理療法における双子自己対象ニード一次の自分へ夢を託すニード— (日本心理臨床学会第31回秋季大会)

<講師より一言>

わが国の施策として在宅医療が推進されています。へき地では都市部と比べて医療従事者が不足しており、在宅医療体制の構築は困難かつ緊急性の高い課題です。へき地在宅医療において臨床心理士が果たすべき役割とは何か。この度、へき地在宅療養患者やその家族が求める臨床心理学的な支援を明らかにすることを目的に、4組の在宅療養中のがん患者及び家族にインタビュー調査 (2012年日本心理臨床学会研究助成を受けて実施) を行いました。その結果を話題提供として提示し、皆様よりご意見をいただきたいと思っております。

岡田 憲

宮川 貴美子 (みやがわ・きみこ)

臨床心理士、産業カウンセラー、スクールカウンセラー。専門は臨床心理学、特に高齢者の心理学的支援に関心がある。

著作・翻訳

『狼男の言語標本—埋葬語法 of 精神分析 / 付デリダ序文』 ニコラ・アブラハム / マリア・トローク著 港道隆、宮川貴美子 ほか訳 法政大学出版局 (2006)

論文

高齢者における箱庭制作の試み 箱庭療法学研究 (2006)

箱庭表現による人の心の発達過程の研究 (報告書、分担共著) 甲南大学平生太郎基金科学研究報告書 (2005)

ほか

<講師より一言>

老いを生きるとはどういうことでしょうか。これは、「老い」がまだ遠い先にあると感じている援助者にとっては難しいテーマかもしれません。そこでこのワークショップでは、調査協力として高齢者により制作された箱庭を提示して、老いを生きることの意味、いかに死ぬか (すなわち、いかに生きるか) ということ、高齢者の心のありようについて考えます。当日はフロアの先生方からさまざまなご意見をいただきながら、高齢者の心理学的支援の可能性をめぐり議論したいと考えています。

宮川 貴美子

長谷川 明弘 (はせがわ・あきひろ)

臨床心理士。臨床動作士。認定催眠士。専門は臨床心理学：心理療法(ブリーフサイコセラピー；ブリーフセラピー、臨床動作法、催眠法)。個人、家族、集団、組織を対象として生涯にわたる発達段階への支援。

1995年愛知学院大学文学部心理学科卒業。1997年新潟大学大学院教育学研究科修士課程(学校教育専攻障害児教育コース)修了。2003年東京都立大学大学院都市科学研究科博士課程(都市社会システム系)修了し、博士(都市科学)を取得。金沢工業大学にてカウンセラーと講師を経て、2013年から東洋英和女学院大学准教授。

日本ブリーフサイコセラピー学会常任理事、日本催眠医学心理学会常任理事。

著作・翻訳

『高齢者の心理』 (分担執筆) おうふう (2011)

『軽度発達障害へのブリーフセラピー』 (分担執筆) 金剛出版 (2006)

ほか

論文

統合的な立場からブリーフセラピーを再定義するー試案・私案・思案ー ブリーフセラピーネットワークカー (2012)

学生相談におけるブリーフサイコセラピーの多様な実践 (共著) ブリーフセラピーネットワークカー (2011)

「ブリーフサイコセラピー研究」の動向と提案 (共著) ブリーフサイコセラピー研究 (2010)

高齢者における地域別にみた「生きがい」の実証研究 博士学位提出論文 (2003)

「からだ」と「こころ」をつなぐ心理療法のかたち (共著) 心療内科学会誌 (2003)

日常生活における「自然な」心理療法 ブリーフサイコセラピー研究 (1998)

ほか

<講師より一言>

高齢者における「生きがい」の地域差をテーマにして研究をしていました。医療領域で認知症をもった高齢者とその家族への支援と心身症を有した方を対象にした実践活動の後、産業領域や大学の学生相談室で実践活動をしてきました。心理学の専門家として実践活動を行うときに心がけていることは「サービスに満足してもらえるかどうか」「有効な支援はどんなことか」です。当日はライブ感を大切にしたいと思っています。

長谷川 明弘

富樫 公一（とがし・こういち）

臨床心理士。米国 NY 州精神分析家ライセンス。National Association for the Advancement of Psychoanalysis (NAAP) 認定精神分析家。博士（文学）。専門は精神分析、臨床心理学。純和会矢作川病院精神科常勤臨床心理士を務めたのち、渡米。National Psychological Association for Psychoanalysis (NPAP)、Training and Research Institute for Self Psychology (TRISP) で精神分析家の訓練を受ける。University of Southern California 招聘研究員、広島国際大学大学院実践臨床心理学専攻准教授を経て、現在甲南大学文学部教授。International Association for Psychoanalytic Self Psychology 評議委員、International Journal of Psychoanalytic Self Psychology 編集委員、一般社団法人日本精神分析的自己心理学協会代表理事。主な受賞歴に、National Association for the Advancement of Psychoanalysis, the 2009 Gradiva Award (Best Journal Article)。

著作・翻訳

『ポストコフートの精神分析システム理論—現代自己心理学から心理療法の実践的感性を学ぶ』 誠信書房（2013）

『関係精神分析入門—治療体験のリアリティを求めて』 岩崎学術出版社（2011）

ほか

論文

Mutual finding oneself and not-oneself in the other as a twinship experience. (*International Journal of Psychoanalytic Self Psychology*, 7(3), 352-368. (2012)

Being Human and not being Human: The Evolution of a twinship experience. Paper presented at the 36 th Annual International Conference on The Psychology of the Self, Chicago, IL. (2013)

Is It a Problem for Us to Say, “It Is a Coincidence That the Patient Does Well” ? *International Journal of Psychoanalytic Self Psychology*. (in press)

ほか

<講師より一言>

私は、普段は精神分析臨床を中心に行っていますが、部屋にこもって面接するだけではない心理臨床の重要性も感じています。その中で、最近特に注目しているのが、へき地医療現場の患者やスタッフ、へき地在宅療養患者やその家族への心理的支援です。そのような現場では、心理的支援の意味をより広くとらえて活動しなければなりません。ただでさえ人材が少ない地域では、心理専門職が活躍できる可能性の幅は大きいと考えています。

富樫 公一

問い合わせ先（メールにてお問い合わせください。）

〒658-8501

神戸市東灘区岡本8-9-1 甲南大学人間科学研究所

Mail : kihs_info@yahoo.co.jp

Web : <http://kihs-konan-univ.org/>

会場

甲南大学18号館3階 甲南大学人間科学研究所 講演室

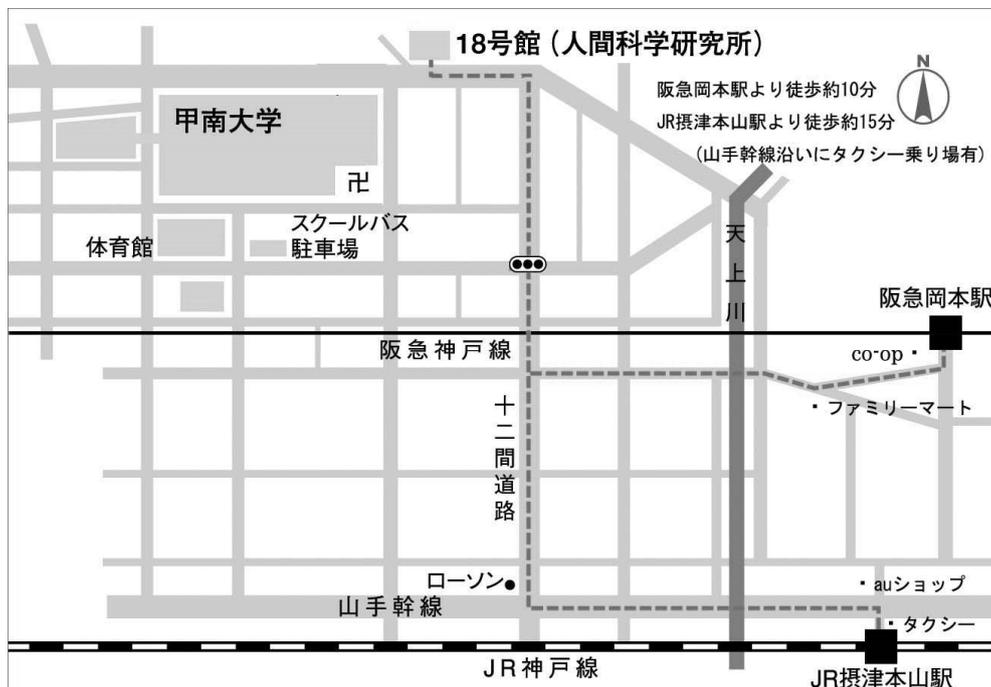
受付（9：30～）：甲南大学18号館3階講演室

甲南大学本校舎とは少し離れた場所にありますのでご注意ください。

お車でのご来場はご遠慮ください（特別な事情がある場合は事前にご連絡ください）。

当日の到着が遅れる場合は必ずご一報ください。

やむを得ない事情で参加できなくなった場合も、必ずご連絡をお願いいたします。



甲南大学
人間科学研究所

Konan Institute of Human Sciences
〒658-8501 神戸市東灘区岡本8丁目9番1号
Tel/Fax : 078-435-2683
E-mail : kihs@center.konan-u.ac.jp
URL : <http://kihs-konan-univ.org>